日本 AALA 連帯委員会ニューズ

緊張と紛争にグローバルサウスは幻滅

プラボウォ・スビアント（インドネシア次期大統領）
2024 年６月１日　国際戦略研究所（IISS）

今秋インドネシアの次期大統領に就任するプラボウォ・スビアント国防相（退役将軍）は６月１日、シンガポールで開催の第 21 回 IISS シャングリラ対話で特別演説を行い、米中の大国間対立や紛争に「グローバルサウスは幻滅している」と述べ、善隣友好と協力、協調こそが平和と繁栄への道だと訴えました。以下はその全文と質疑応用の翻訳です。

IISS Shangri-La Dialogue 2024: Special Address

ご参加の皆様、友人の皆様、3 回連続でこの会議に出席できたことを大変光栄に思います。

私たちは、国防、安全保障、政治分野の政策立案者として、リーダーとしてここに集まり有意義な議論をおこなっていますが、これは私たちが互いにつながりあっている世界の平和と安定を強化するために極めて重要であります。

時には、このような場に出席することに抵抗を感じることもあります。というのも、正直にコミュニケーションをとらず、誠実に交流しない危険があるからです。自分の立場を表明しながら、他人の意見に耳を傾けたくないのです。

しかし、今日、私たちは歴史の中で特に微妙な時期を迎えています。あからさまな対立が深刻化し激化し、露骨な国際法違反がおこなわれ、そして国家間の不信が継続的に拡大しています。それによって地政学的緊張が高まり、多国間主義が連続して挑戦を受けています。

ご列席の皆さん、友人の皆さん、今、法の支配やルールに基づく秩序について多くのことが語られています、 しかし、私たちがここに座っている間にも地政学的な緊張や紛争、衝突が起きていて、多くの国々、特にグローバルサウスに幻滅しています。

インドネシアは、ますます小さくなるこの世界では、平和と安全、安定と繁栄を追求するうえでは、協調と協力、妥協、そして他国の国益と核心的な関心事を尊重することが非常に重要だと考えています。そして対話と協力のみがこれらの目標を達成するための効果的な手段になりうると確信しています。

我々の住む地球は、実際にますます小さくなっており、繁栄と調和を達成するには、協力しか方法がありません。インドネシアは、国際法、特に国連憲章に謳われた、すべての国の国家主権と領土の尊重を堅持するとともに、包括的な対話と具体的な協力を深めていくことを固く決意しています。

世界各地で紛争が絶えず、特にウクライナとパレスチナで顕著になっていますが、これらが浮き彫りにしているのは外交対話への継続的なコミットメントが不可欠であることであり、平和的解決策を模索する国際的連帯が重要性です。持続的で真のグローバルな協力がなければ、これらの地域での恒久的な平和の達成は、厄介な挑戦のままであることは明らかです。

私は、最近ガザのラファで起きた悲劇的な出来事について述べたいと思います。子どもや女性、非武装の市民を含む多くの罪のない犠牲者を出しました。この悲惨な出来事について、全面的な調査を緊急によびかけずにはいられません。この悲劇の全容を理解することは、このような事件の再発を防ぐために不可欠です。

私たちは、パレスチナ問題が長く歴史的な問題であることを重々承知しています。双方が、自らの安全と生存の権利、繁栄に対する正当な懸念を持っていることを認識しています。また、この危機の解決は、すべての当事者の権利と懸念の相互尊重から成らなければならないという事実も認識しています。

しばしば繰り返されてきたように、ただ一つの主張が正当であることはありえません。インドネシアは問題の公正な解決をよびかけます。それは、存在する権利はイスラエルだけでなく、パレスチナ人もまた自分たちの祖国、自分たちの国家を持ち、平和に暮らす権利をもつことを意味します。

ここで、この地域における最新の動きについてコメントしたいと思います。なぜこれが私たちにとって重要なのでしょうか。それはインドネシアがイスラム世界に属するからです。物理的には地域の一員ではありませんが、しかし中東で起きていること、ガザで起きていることは、インドネシアの人々の重大な関心事なのです。

今聞きばかりの動きですが、バイデン米大統領が包括的なガザ停戦案を発表しました。提案の詳細についてはさらに検討する必要がありますが、私たちは、進むべき方向への重要な正しい一歩と見なしています。ハマスの代表もまた提案に前向きな反応を示しているのは喜ばしいことです。

本日、包括的かつ恒久的な停戦を支持するというインドネシアのコミットメントを表明したいとおもいます。それは、真の永続的な解決、イスラエルとパレスチナの間の真の和平と地域の平和につながる重要な一歩になるでしょう。

今日、私たちが世界の多くの国々とともに確信しているのは、イスラエルとパレスチナ双方のための永続的な平和と安全保障の唯一で真の解決策は、2 国家解決策であるということです。インドネシアはその最終的な 2 国家解決に向けた進展を早めることができるすべての努力と措置を支持します。

一方、私たちは人道援助の提供のためできる限りのことをする用意があります。また必要とあれば、あるいは国連から要請があれば、この解決策を維持・監視し、

すべての当事者と周辺の安全を確保する大規模な平和維持部隊を提供する用意もあります。また、各当事者の同意と合意があれば、医療要員を直ちに派遣し、ガザで野戦病院を運営する用意もあります。この医療要員の派遣を早めるため、パートナーと協議しています。

インドネシアは、負傷したパレスチナ市民を避難させ、インドネシアの病院で必要な治療をしたいと考えています。ジョコ・ウィドド大統領は私に、近い将来、最大 1,000 人の患者を受け入れる用意があることを表明するよう指示しました。

パレスチナ問題の永続的な解決を積極的かつ効果的に追求するための、包括的な和平と恒久的な停戦に向けたこの前向きな動きは、国際社会全体によって支持されるに違いありません。その目標に向かって共に努力しようではありませんか。すべての側の利益のために、私たちは真の永続的解決を達成するために最善を尽くさなければなりません。

1 年前に出席したシャングリラ対話で、私はウクライナ情勢での即時停戦と敵対行為の停止を提案しました。それ以来、ウクライナ側とロシア側の双方で、何千人もの命が失われました。多くの罪のない一般市民も含まれています。一年経った今でも、私はこの提案が依然として論理的で、適切で、必要なものだと確信しています。ウクライナのこの困難で、危険で、潜在的に悲惨な状況に対する中間的な解決策として必要なのです。

インドネシアはこの地域から遠く離れていますが、私たちは人道的な苦しみ、地政学的、経済的な影響を深い悲しみをもって見ています。それは全世界、私たちの地域にも影響を及ぼしています。そしてもちろん、この世界の市民として、この小さな惑星の市民として、エスカレーションの危険性と誤算の危険性、敵を理解しない危険性、敵を過小評価する危険性を見失ってはなりません。私たちは常に、エスカレーションの危険性と核戦争という悪夢を認識しておかなければなりません。

もう一度、ウクライナでの平和的な妥協点を模索するために、双方が挑戦することを改めて呼びかけたいと思います。ウクライナの人々、ロシアの人々、ヨーロ

ッパの人々、そして世界の人々のために、真の指導者たちはかならず自国の国民を守るために最善の解決策を選ぶと私は確信しています。

皆さん、私たちの地域であるインド太平洋、特に東南アジアに関して、私たちは常に協調と妥協、協力に向けて努力してまいります。私たちは、この地域のすべての利害関係者の間で、自制と忍耐、そして慎重さが優勢になることを求めてまいります。私たちは今一度、偉大な中華文明の指導者たち、そして偉大なる西側諸国を代表する米国とその西側同盟国の指導者たちに、大きな責任をもって世界の大国としての指導の役割を果たすようによびかけます。

私たち世界の国々は、大国の知恵と政治家としての手腕、そして慈悲深さに依存し、頼り、求めているのです。私たちは、大国の指導者たちが互いに共存し、人類の共通善の追求のために協力し、協働することができると確信しています。大国には大きな責任が伴います。世界はより小さくなり、科学技術は国民生活向上の機会を与えてくれました。しかし同時に、知恵と慈悲がなければ、科学技術はたちどころに全世界に災難と大惨事をもたらすこともありえます。ナショナリズムは人間性によって相殺されなければなりません。愛国心は、知恵と世界のすべての同胞に対する敬意によって和らげられなければなりません。共通の善に向かってともに努力しようではありませんか。
ありがとうございました。

Q&A セッション

司会と参加者からの質問は以下の４点。

１，　スイスでのウクライナ平和会議にインドネシアはハイレベルの代表団を派遣するのか。
２，　対立する大国の責任についてもう少し詳しく。
３，　他の国の意見に耳を傾けようとしない国という指摘はどの国のことを指しているのか。
４，　東ティモールとの境界線に関する交渉について、

プラボウォ・スビアント将軍（国防大臣兼次期インドネシア大統領

（最初の平和会議への参加について）私はまだインドネシア共和国の大統領ではありませんし、それは現大統領の権限です。ですから、その質問は彼に聞いてください

次の質問ですが、米中対立、あるいは競争とでも言いましょうか、それについて私たちの見解をお聞かせくださいということでした。私たちの考えは、伝統や歴史、インドネシア国民の政治的意思によって、非常によく知られていると思います。我々は非同盟政策を維持し、世界のすべての国々と最良の関係を維持しなければなりません。同心円状に関係を分けるとすれば、インドネシアの政策は、そして私が推進する政策は、すべての隣国との善隣政策の維持、育成し、強化です。

私自身、アマチュアの歴史家として、ずっと確信してきたことは、真の安全保障は近隣諸国との良好な関係によってもたらされるということです。これはアジアの文化の一部です。私たちは、身近な隣人とは緊密で友好的でなければなりません。それが日常生活における私たちの文化なのです。隣の家が火事になったら、誰が助けてくれるでしょう。別の町に住むいとこでしょうか。別の村に住む兄弟でしょうか。そうではない、隣の家の人でしょう。

だから、このアプローチによって、素人歴史研究を通じて、私は、非同盟、すべての隣人への敬意、すべての国への敬意、すべての宗教、すべての人種、すべての文化、すべての大国への敬意というインドネシアの伝統が正しい道であると確信したのです。そして、私たちはこれを維持していきます。ですから、中国と米国の間の問題に関しては、私たちは常に共存と協調、妥協を達成するためのあらゆる努力を推進していきます。すべての大国の指導者たちに、全世界の共通の利益、共通の安全保障、共通の富を最優先としなければならないことを説得してしなければなりません。それが私たちの立場であり、関与し、尊重し、コミュニケーションし、交渉することによって、これらの問題の多くを解決できると考えています。

私たちにも、以前に隣国との軍事衝突がありました。私の人生でも、マレーシアやシンガポールと対立したことがありました。しかし今は最高の友人同士です。

外部からの干渉を受けることなく、意見の相違を解決しました。マレーシアとの争いに終止符を打ちました。シンガポールとの争いも終止符を打ちました。今や我々は兄弟のようなものです。シンガポールとバタム島の間、マレーシアとインドネシアの間に陸橋を架けようと話しています。これが私たちの伝統です。

カンボジアも長期の紛争を解決ました。東ティモールの紛争には私も携わりました。今、私がラモス＝ホルタ大統領と同じテーブルにつくことを想像できる人はいるでしょうか。想像できますか。写真やビデオがあるかもしれませんね。昨夜、私たちはお互いにハグしていました。手をつないで歩いていました。そして彼は私を東ティモールに招待してくれました。今考えているところです。
（以上）

【機械翻訳チェック　田中靖宏】
y.